

## ⑰ラグビー強豪県、神奈川県（桐蔭学園連覇）

2021年1月9日

お正月明けちょうど学校が始まる頃にラグビー界では、お正月名物全国高校ラグビーが決勝を迎える。今年はコロナ禍の影響か、準決勝後中3日をおいて土曜日に東大阪市花園ラグビー場で開催された。その為、TVで観戦する方も多かったのではないだろうか。

本年度はコロナ禍の影響もあり、そもそも全国規模の戦いは春休み以降すべて中止。この全国高校ラグビー大会（以下、通称“花園”と称す）も開催を危ぶまれていた。しかしながら、今年は100回の記念大会。大会関係者も無観客試合開催と決断。外野はうるさかったかもしれないが、コロナ感染もなく無事にすべての試合が開催されたことは奇跡的なことだ。

そうした中で、神奈川県から代表：桐蔭学園に加えて関東オータムチャレンジ枠で東海大相模の2校が出場。昨年度桐蔭学園が全国制覇（2回目、単独優勝は昨年度が初）をしている。いわば敗者復活戦を勝ち上がった東海大相模のお陰で、名実共に神奈川県はラグビー強豪県として全国に名を馳せる形となった。

しかし、今年の“花園”は本当に良い試合が繰り広げられた。前評判が高かった昨年度準優勝校御所実業、名将竹田監督が定年を迎える御所実業はまさに本命視されていた1校だ。兵庫大会2位の報徳がオータムチャレンジで天理を下し、“花園”に出場。そしてくじ引きで引いた相手と同じ奈良県代表の御所実業。同じ関西圏同士、好ゲームであった。その後、国学院栃木、東海大相模といずれも辛勝でベストエイト進出。準々決勝は再度抽選だが、なんと御所実業の相手は昨年度の決勝の相手桐蔭学園だった。残念ながらシーソーゲームを重ねた御所には力が蓄えられていなかった。（もう少し御所実業のラグビーは別の機会に）

これ以外にも、やはり今後も語り草になるだろう、ベストエイトで当たった東福岡と東海大仰星。こちらもがっぷり四つの21-21、同点引き分け。抽選で先に進んだのは東福岡。運だけで決めてしまうには酷な試合だった。でも、試合終了後の両チームの選手たちの顔にはやり切った感がみなぎっていた。（この試合も是非時間を割いてひも解いてみたい）

いずれの試合も甲乙つけがたかったが、やはり決勝戦の京都成章 vs 桐蔭学園の試合を最後に振り返っておきたい。これまで比較的ハンドリングエラーが少なかった桐蔭がボールを落とすプレーに対して京都成章の着実な前進ができた前半10-10のタイで後半に。後半に多く得点する桐蔭がラインを深くすることでフィールド全面を活用するランニングラグビーで京都成章を揺るがす。ほころびの見える部分を突くプレーで終わってみれば●京都成章15-32桐蔭学園○と幕を閉じた。

いずれのチームも高校代表のメンバーを多く有する。紙面を賑わせていた超高校級と云われた桐蔭No.8佐藤君、ロック青木君、京都成章ロック本橋君、センター松沢君、山田君などがあがっていたが、決して彼らだけが目立つことなく本当にみな一生懸命やっていた。しいて言えば基本に忠実、ボールを持つプレーを正しく理解して後ろからサポート、プレーするプレイヤーの質が勝敗を分けたのかもしれない。

全国2連覇となった神奈川県。われわれもその神奈川県に籍を置くラグビースクール。その名に恥じないスクールとして「基本に忠実に楽しいラグビー」を今年も展開したいものだ。